

1950～60年代中国各種運動史料

前書き

東洋文庫では2007年前後に、1950～60年代中国に関する様々な資料を購入した。その数は総計数百タイトルに及ぶ。東洋文庫現代中国研究資料室では2007年度より「50～60年代史料研究会」を組織し、上記資料の特徴・利用可能性などを検討し、また一年以上かけて整理を行い、閲覧ができるよう準備をしてきた。このたび、一部資料の整理が終わり、利用が可能になったため、閲覧者の便に供すべく、史料のうち重要と思われるものを中心に、解題を作成した。

なお、タイトルの後ろにある#マーク以下の数字は請求記号である。東洋文庫閲覧室に赴き、請求票に請求番号、書籍タイトル等必要事項を書いて係員に渡せば、実際に資料の閲覧が可能である。

解題

資料は、主に建国初期から文革期のものまで多数ある。またその種類も共産党の資料から紅衛兵資料まで多岐にわたる。したがって、ここでは特に（A）工業の社会主義改造、（B）農業の合作化、（C）整風運動、（D）民兵工作・社会主義教育運動、（E）文革、とテーマ別に項目をもうけて、いくつかの重要文献を紹介したい。

（A）工業の社会主義改造

1) 哈爾濱市整理私営工業歴史資料弁公室「黒龍江省哈爾濱市 対私営工業社会主義改造工作政策 法令輯編」第1～3冊（1957年12月31日）

黒龍江省のハルビン市の社会主義改造に関する法令などを集めた手書き資料。体系的にまとめられており、地域中心的なアプローチから社会主義改造の状況を具体的に検証するにはきわめて有用な内部資料である。

内容は以下の通り。

第1冊 一 工商部分

第2冊 二 行政

三 加工定貨

四 糧食

五 商業

1 花紗布

2 五金電料（包括廢鋼鉄）

3 皮張及牲畜

4 灘販行商經濟人

5 其他有關商業（包括市坊）

- 第3冊 六 五反
- 七 公私合営
- 八 調査統計
- 九 その他

(B) 農業の合作化

2) 中共中央弁公庁編印『怎樣弁農業生産合作社』(1955年) #III-19-31

各省、市、区の党内刊行物、新聞、下級党委もしくは工作者の上級党委への報告、合作社社長の北京での談話記録をまとめた内部資料。毛沢東が比較的長い序言を書いており、毛の合作化への態度を知るうえでも重要である。

本資料は地域ごとにまとめられている。対象地域は以下の通り。

河北省、山西省、内蒙古自治区、北京市、天津市、黒竜江省、吉林省、遼寧省、山東省、安徽省、江蘇省、浙江省、福建省、河南省、湖北省、湖南省、江西省、広東省、広西省、四川省、貴州省、雲南省、陝西省、甘肅省、青海省、新疆ウイグル自治区。

(C) 整風運動

3) 鄧小平「關於整風運動的報告 一九五七年九月二三日在中国共産党第八期中央委員会第三回拡大的全体会議上」(湖南人民出版社、1957年) #III-18-736

57年の整風運動に関する鄧小平の報告。『鄧小平文選(1938—1965)』(人民出版社、1989年)には収められていない。7月に青島で招集した一部の省市委書記会議で毛沢東が提示した方針をうけて、鄧小平が示した整風運動の全体的計画。

内容は以下の通り。

- 1、運動の一般的状況
- 2、資産階級と知識分子について
- 3、農村について
- 4、工人階級について
- 5、少数民族について
- 6、軍隊について
- 7、党と団について
- 8、仕事を改善し、全勝を勝ち取る。

4) 中共湖北省委宣伝部編『右派言論選集(続編)』(湖北人民出版社、1957年) #III-18-687

百花斉放期に出された批判を収録した言論選集。当時、どのような政治批判があり、どのような言論が危険視されたのか。その全体像をつかむ上で重要である。

所収された「右派言論」は以下の通り。

吳開斌的右派言論
徐真的右派言論
張地：論政党在国家中的地位
劉繁華的兩篇文章
江心紋：領導及其他
曹修怒、廖長：民主生活中的暗影
雷鳴（雷英元）：中国為什麼這樣窮
才言（孟広鈺）：十大建議
陳嘉勉：給武漢医学院××的三封信
邱永春：再論在社会主义時代的群眾自發運動
古希天的右派言論
陳柏華：一個根本的社会問題
李雨三在全院師生員工辯論大会上的發言
封章諫：自我檢查
劉清源：看看党員
胡善恒：墻壁問題
王聖麟：一点“謬論”
前哨（楊林）：無名小卒十八問
凌曉光的右派言論
李文威的右派言論
歐陽咸禹：我的思想檢討
趙基高的右派言論
劉源清的右派言論
張芝田的右派言論
易成的右派言論
宋西的右派言論
姜弘的右派言論
盧盛模的右派言論
吳丈蜀的右派言論
和穆熙的右派言論
陳家鎔的右派言論
汪誠
潘之辛的右派言論
張章的右派言論
趙光華的右派言論
沈会葵的右派言論

王冀民的右派言論
郭笑云的右派言論
蔡培元的右派言論
李肇基的右派言論
周慶余的右派言論
厲無咎的右派言論
彭一湖在中共武漢市委召開的座談會上的發言
李華庭的右派言論
周世瑞的右派言論
錢鋒的右派言論
韓紹斌的右派言論
馬伯鵬的右派言論

(D) 民兵工作・社会主義教育運動

5) 江蘇省首屆民兵代表會議大會秘書處編印『江蘇省 首屆民兵代表會議單位事蹟匯編』 (1960年3月) #III-19-39

58年以降本格化した民兵組織化の状況を報告した資料。江蘇省内の報告だが、工場や人民公社における具体的な発展状況が理解できる。

内容は以下の通り。

- 1 勞武結合在大運河工地上—大運河工程儀征總隊民兵團
- 2 中共蘇州軋鋼廠黨總支是怎樣加強民兵工作領導的
- 3 生產上突擊隊國防上後備隊—記太州縣野徐人民公社的民兵工作
- 4 公社黨委助手人武工作旗幟—吳江縣橫扇人民公社人民武裝部是怎樣在黨委領導下開展民兵工作的
- 5 大弁民兵推動教學—徐州市第5中學
- 6 守衛在黃海之濱—海門縣東興人民公社民兵工作情況介紹
- 7 把海港建成為銅牆鐵壁—記燕尾港人民武裝工作
- 8 福亮公社民兵團是怎樣在水利工地上開展兵訓練的
- 9 愛護武器的標兵營—建湖縣上崗民兵營
- 10 結合生產開展民兵工作、通過民兵工作促進生產—無錫市木器廠民兵工作介紹
- 11 我們是怎樣領導民兵工作的—鎮江市上黨人民公社黨委
- 12 南京有線電廠正確執行了勞武結合的原則

6) 中國人民解放軍總政治部群眾工作部編印『四清運動中民兵工作經驗』(1965年8月) #III-19-30

社教運動中におこなわれた民兵工作の経験を報告した資料。報告者は、傅秋濤（総参謀

部動員部部長)、韋国清(広西区党委第一書記)、劉紹文(北京衛戍区第二政治委員)、遼寧省金県杏樹大隊工作組、李桂嵐(遼寧省金県大李家公社新建大隊工作組)である。この資料は、58年の第二次台湾海峡危機以降急速に進む国民皆兵(全民皆兵)の流れのなか、社会主義教育とセットでおこなわれた民兵工作の内容を明らかにしている。

内容は以下の通り。

後灘大隊社教運動中民兵工作報告 傳秋涛

結合四清運動整頓民兵組織的情況和做法 韋国清

在四清運動中運用以点帶面、点面結合的方法加強民兵建設的報告(摘要) 劉紹文

關於杏樹大隊社会主義教育運動中民兵工作總結報告 遼寧省金県杏樹大隊工作組

我是怎樣做民兵工作的 李桂嵐

(E) 文革資料

7) 「对破壞知識青年上山下鄉的犯罪分子的批判發言材料匯集」(1970年6月20日)

#III-19-15

「知識青年」が下放先で受けた迫害について詳しく知ることができる資料。被害者は女性が多く、とくに地方の幹部によるレイプの報告が多い。文革におけるジェンダーの問題を考えるうえでも重要である。

内容は以下の通り。

憤怒声討、徹底批判強姦下鄉女知識青年的罪犯滿志忠的滔天罪行

憤怒声討、徹底批判破壞知識青年上山下鄉、強姦犯李海泉的滔天罪行

憤怒声討、徹底批判破壞知識青年上山下鄉、強姦犯郭良才的滔天罪行

憤怒声討、徹底批判犯罪分子李鐸、賈偉光殘害下鄉知識青年的反革命罪行

徹底批判破壞知識青年上山下鄉犯劉洪久的罪行

徹底揭發批判破壞知識青年上山下鄉犯唐忠山的罪行

憤怒声討、徹底批判破壞插秧大会戰、強姦犯劉長祿的罪行

8) 『知識青年上山下鄉工作會議材料匯集』(中共南陽県委知識青年上山下鄉工作會議、1973年12月) #III-19-16

上山下鄉工作會議の資料。7)と併せて読むと興味深い。報告されているのは、とくに河南省、上海市、河北省の事例。各地域における組織の方法や状況が説明されている。

内容は以下の通り。

一、進一步做好知識青年上山下鄉的工作

二、做知識青年上山下鄉的促進派

三、滿腔熱情做好知識青年上山下鄉工作

四、河南省是怎樣試办“三結合”青年隊的

五、上海市配合安置地区做好下鄉知識青年工作

六、河北省豊潤県前営大隊党支部書記徐敏光同志的發言摘要

*注：上記 2 冊の特色は、文革「後期」の資料という点にある。日本国内にある文革期の内部資料の多くは、67～69 年くらいまでの紅衛兵資料である。それ以降は、ほとんどの紅衛兵組織が解散させられたため極端に資料の数が少なくなる。紅衛兵組織が動員解除され、若者が農村などへ移送された後の状況をうかがえる貴重な資料である。

9) 新北大《為人民服務》戰鬪隊『無産階級文化大革命 中央負責同志講話 (十一月份)』 (1966 年 12 月) #III-19-80

文革初期 66 年 11 月における周恩来、張春橋、李富春、王力、陳毅、江青、譚震林など中央リーダーの談話を集めた資料集。北京大学の紅衛兵組織が編集。文革初期資料のためリーダー間の立場の差異が浮き彫りになっている。なお 66 年 5 月以降、このような講話集は各地の主要な紅衛兵組織によって「翻印」されており、さまざまな複製が存在する。しかし、日本には少ないうえ、公刊された資料集にも所収されていないため貴重である。

非常に多くの談話が所収されている。特に重要と思われるものを以下に紹介しておく。

周総理和天津工学院毛沢東思想紅衛兵座談摘記 (11 月 1 日)

党和国家領導人接見参加第一屆亜新会体育代表团時的講話 (11 月 4 日)

李富春同志在国務院接待室接待一輕部部分革命群衆代表的談話記錄 (11 月 4 日)

周総理、江青同志接見部分学校紅衛兵代表討論紀要 (11 月 8 日)

張春橋與戚本禹同志與北航五名紅旗戰士的談話紀要 (11 月 8 日)

王力同志在政協礼堂接見山東部分来京串連革命群衆的講話 (11 月 9 日)

謝富治副総理、劉寧一副委員長在中南海接見安徽部分革命師生、工人代表的講話 (11 月 12 日)

周総理接見科学院革命串連隊代表時的講話 (部分内容) (11 月 12 日)

陳伯達同志給上海工人電 (11 月 12 日)

張春橋同志在上海文化広場的座談講話 (11 月 13 日)

康生同志在新疆的談話 (11 月 15 日)

王力、戚本禹同志關於工人運動的談話 (11 月 15 日)

周総理在北京工人体育館講話 (11 月 16 日)

張春橋同志於蘇州鉄中接見上海市工人革命造反司令部部分工人講話 (11 月 16 日)

陳伯達、江青同志在政協礼堂接見北航紅旗戰士時的談話 (11 月 19 日)

周総理講話 (11 月 20 日)

陳伯達、王力、関鋒、劉建勛等同志於政協礼堂接見商業部招待所全体上訪群衆的講話 (11 月 22 日)

周総理在人民大会堂接見全国各地革命小将大会上的講話 (11 月 27 日)

陳伯達、関鋒同志在北京鋼鉄学院的講話（11月27日）

江青同志在文芸界大会上的講話（11月28日）

陳毅、葉劍英等同志在工人体育场接見軍事、国防院校革命師生代表時的講話（11月29日）

周総理、陳毅同志接見全国工礦代表的講話（11月30日）

10) 中共拉薩市委党史工作領導小組編『中共拉薩党史大事記（1966. 5—1976. 10）』（1998年）#III-18-715

文革期のラサの大事記。文革期の大事記は多いがチベットに関するものは少ない。「反革命暴乱」などにも触れているが、被害状況や民衆の派閥状況などに関する具体的な記述は少ない。66年年以降、76年まで年ごとに大事記がまとめられており、基本的な流れを理解することができる。

11) 河南二七公社・中国人民解放軍赴豫調査団・中国人民解放軍駐鄭部隊支左聯合弁公室『毛主席的革命路線勝利万歳！ 中央首長關於河南問題的指示及赴京匯報紀要匯編』（1967年8月）#III-19-50

67年以降の支左工作の過程で、河南省で発生した人民解放軍の弾圧事件に関する内部文書。当時、軍も介入した大規模な武力衝突が問題化した。本資料は問題解決のために周恩来らが開催した会議録が収められている。武力闘争をめぐる中央の議論が確認できる数少ない資料である。

多くの会議録、談話が所収されている。特に重要と思われるものを以下に紹介しておく。

河南問題第一次向中央匯報紀要（1967年5月29日）

河南問題第二次向中央匯報紀要（1967年6月13日）

河南問題第三次向中央匯報紀要（1967年6月14日）

河南問題第四次向中央匯報紀要（1967年7月2日）

河南問題第五次向中央匯報紀要（1967年7月4日）

河南問題第六次向中央匯報紀要（1967年7月18日）

河南問題第七次向中央匯報紀要（1967年7月21日）

河南問題第八次向中央匯報紀要（1967年7月30日）

文責・金野純（学習院女子大学国際交流学部専任講師）